

右：ブナの原生林 [写真出典：上村俊邦著『越県合併資料 石徹白合併鶏肋集』]

左上：伐採された原生林 [写真出典：上村俊邦著『石徹白郷資料集』]

左下：木材が搬出される [写真出典：上村俊邦著『越県合併資料 石徹白合併鶏肋集』]

かつて石徹白の奥山には広大なブナの原生林が広がっていました。

昭和 18 年、第二次世界大戦の最中、福井県は、その筋からの命令だといって、石徹白村の公有林を軍需用材に売却するよう勧告します。原生林は長く石徹白の人々にとって信仰の対象であったため、抵抗。しかし、最終的には県の強い圧力により売却を決定しました。

戦後、売却されたものの一本も伐採されずに残っている原生林について、終戦により軍需用材としての当初の目的を失ったことから、石徹白の人たちは返還を求めました。けれども、奥山開発、地域振興、住民福祉増進という大義名分の下、県主導で、原生林の伐採が行なわれる結果に。最終的にはパルプ材まで出材したために、一帯の山はすべて裸山となりました。

※石徹白は、当時は福井県大野郡石徹白村。昭和 33 年に白鳥町と越県合併をし、岐阜県郡上郡白鳥町石徹白となりました。

※上村俊邦著『越県合併資料石徹白合併鶏肋集』に依りました。